

リウマチ・膠原病センター

■ スタッフ

センター長	中島 亜矢子
副センター長	若林 弘樹

医師 常勤	5名
併任	1名

■ 特色・診療対象疾患

当センターは、リウマチ膠原病性疾患全般を専門に診療する部門です。対象疾患は、ほとんどが慢性炎症性疾患で、骨関節・呼吸器・腎臓・皮膚などの多くの臓器に病変をきたし多彩な病態をとることが特徴です。全診療科を兼ね備えている大学病院ですので、一人一人の多彩な病状に対し、関連する診療科と連携しながら最新の診療にあたります。

近年、多くの生物学的製剤や免疫抑制薬などの治療薬が開発されてきており、早期に診断し、寛解をめざした安全で効果的な最新の治療を提供します。

治療が長期にかかる病気が多いですので、近隣の医療機関との連携を大切にし、患者さんの生活の質や長期予後の改善を図るようにしています。

1. 当センターの特色

三重県下、最大のリウマチ膠原病診療施設です。

- 安全で最先端の国際標準治療の実施
- 複数担当医によるチーム医療
- 関連する診療科との連携
- 関節超音波検査等医療機器を用いたリアルタイムの関節炎評価
- 院外施設から診療依頼の積極的受け入れ
- 患者さんを中心とした全人的診療の実践

2. 主な診療対象疾患

- 全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群
- 血管炎症候群：高安動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症
- 成人スチル病、ベーチェット病、多発軟骨炎、リウマチ性多発筋痛症、IgG4 関連疾患
- 脊椎関節炎、乾癬性関節炎、偽痛風
- IgG4 関連疾患、サルコイドーシス など

■ 活動実績

当センターでは、診療のみならず、医学生、初期研修医、専攻医の教育、並びに研究活動にも力を入れています。

1. 治療実績

- 新患 年間約 450 名
- 再診 延べ 4,500 件
- 入院 約 95 例
- 全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎/多発筋炎、強皮症、血管炎症候群、関節リウマチ、多発軟骨炎、TAFRO 症候群、キャスルマン病 など

2. 教育活動の実績

- 卒前教育：講義・Tutorial 教育、病棟実習
- 卒後教育：初期研修医・専攻医への臨床指導、学会発表指導、論文作成指導
- 生涯教育：年 2 回のリウマチ膠原病セミナー開催（1月、7月）
- リウマチ専攻医（内科系）

3. 臨床研究等の実績

研究課題

- 炎症性腸疾患における関節症発症リスク
- 多発軟骨炎の臨床 など

発表学会

- 日本リウマチ学会
- 日本内科学会総会（内科学会奨励賞受賞）
- 欧州リウマチ学会
- 日本内科学会東海地方会 など 計 7 演題

■ 今後の展望

全国的にも、三重県内にも数少ないリウマチ膠原病専門医の育成を目指します。地域の先生方と協力した地元でも可能なリウマチ膠原病診療体制を構築していきます。2020 年度には市民公開講座も予定しており、リウマチ膠原病性疾患の啓発により早期診断早期治療介入をめざします。リウマチ膠原病に悩まれる患者さん、先生方のお役に立てるようになることをめざしております。

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/rheum/>